

第14回デメンシアカンファレンスを開催

2016年5月24日

5月24日(火)に金沢大学が担当する北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)「第14回デメンシアカンファレンス」を開催しました。

今回のカンファレンスには、金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、国立病院機構医王病院、石川県立高松病院、国立病院機構北陸病院、医療法人社団弘仁会魚津緑ヶ丘病院の8施設が参加しました。

「認知機能障害で発症し、その後歩行障害を来した一例」のタイトルで、金沢大学 神経内科からの症例報告が進められ、第14回目のデメンシアカンファレンスは、金沢大学と各施設間で活発に質疑応答や意見交換が行われました。



金沢大学からの症例報告の様子



各会場の様子



金沢大学会場の様子



各施設間での質疑応答の様子

第 14 回デメンシアカンファレンス 報告要旨

『認知機能障害で発症し、その後歩行障害を 来たした一例』

発表者：金沢大学 神経内科 小松潤史

司 会：金沢大学 神経内科 池田芳久

【要 旨】

60歳時にものわすれで発症し、後に歩行障害を来した。当科にて遺伝性痙性対麻痺と臨床診断した。能登地方に在住の患者であり、同地方の遺伝性痙性対麻痺を当科症例で検討した。症例は4家系7症例。全例に前頭葉機能障害を認め、頭部MRIにて脳梁の萎縮を伴っていた。うち1つの家系は、視床変性による前頭葉機能障害という特徴を有する新たな遺伝性痙性対麻痺の一型である可能性があると考えられた。

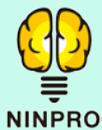
【質問・意見】

質問：・・・・遺伝子検査はしたのか？

回答：・・・・十分な検査は出来ていない。

コメント：

- ・富山の氷見でも痙性対麻痺の家系を経験しているが、認知症は伴っていないかった。



文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

第14回

デメンシア カンファレンス



認知機能障害で発症し、 その後歩行障害を来した一例

担当：金沢大学 神経内科

対象：参加施設及びその他の施設の医療関係者
(医療系大学の学生を含む)

会場：認プロ参加施設テレビ会議システム設置場所

- ・金沢大学（医薬保健学域医学類教育棟地下大多目的室）
- ・富山大学（附属病院2階カンファレンスルーム2）
- ・福井大学（院生棟4階セミナー室）
- ・金沢医科大学（基礎研究棟3階大学院セミナー室）
- ・国立病院機構医王病院（臨床研究棟会議室）
- ・石川県立高松病院（医局会議室）
- ・国立病院機構北陸病院（特殊診療棟2階小会議室）
- ・谷野呉山病院（共通棟1階ミーティング室）
- ・魚津緑ヶ丘病院（5階会議室）
- ・福井県立すこやかシルバー病院（管理棟2階応接室）

5 / 24 火
18:30~20:00



申し込み不要 出席者は受付で出席簿に記入し、教育コース履修者は本人保管用の受講票を受理の上、検印を受けてください。

○お問い合わせ先 北陸認プロ運営事務局
〒920-8640 石川県金沢市宝町13番1号
金沢大学医薬保健学域 医学類B棟
TEL:076-265-2149 FAX:076-234-4208
e-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL:http://ninpro.jp/